

# 富山県立砺波高校の公開授業「ライフプラン×SDGs」に オーダーメイドのオリジナル映像を提供しました！

三井住友信託銀行では2012年より、環境専門のインターネット放送局グリーンTVジャパン、SDGs TVを運営する株式会社TREEと協働し、次世代を担う子供たちに向けたESD（持続可能な開発のための教育）プロジェクトに取り組んでいます。

第14回目となるESDプロジェクトは、富山県立砺波高校が今年1学期より取り組んできたSDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」に関連する公開授業に、オリジナル映像を制作・提供させていただきました。

## SDGsとは

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されており、「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」をスローガンに、発展途上国から先進国まで一体となって積極的な取り組みを進めています。



## 「ライフプラン×SDGs」住み続けたいまちについて考える

2019年11月8日（金）、富山県立砺波高校にて「新たな学び創造授業に係る公開授業と研究協議会」が開催されました。

これは、同校家庭科の永井教諭が1学期より取り組まれてきた家庭科の授業「ライフプラン×SDGs」の一環として公開された授業です。当日は、他校教諭や文部科学省調査官、教育研究者など、多数の参観者が参加しました。授業では、高校1年生40人が、今まで学んでSDGs、高齢者や妊婦、車椅子利用者の疑似体験などを念頭に置きながら、「人が集まる賑やかなまち」などをテーマにした事前課題を持ち寄り、地元・富山の良い点や問題点、課題や解決策についてグループで共有しました。



生徒の皆さんが「住み続けられるまちづくり」をテーマにディスカッションをするにあたり、当社がこの授業のために制作したオーダーメイドのオリジナル映像「砺波高校出身者の活動・想い」を視聴いただきました。これは、同校OBの島田さん・森松さんに事前にインタビューをした様子を収めた映像で、地元・富山を住み続けられるまちにするための想いやお二人が取り組まれている活動を紹介する内容です。

授業後、生徒の皆さんからは、「映像をみて自分の思考をより深めることができた」「新しいものをつくることばかり考えていたが、既存の良いものを生かすことも重要だと分かった」等の感想が寄せられ、「住み続けられるまちをつかっていくのは自分たち自身である」というOBのお二人のメッセージしっかりと感じてもらえたようです。

## 教科別協議会・全体協議会での意見交換

公開授業終了後、参観者同士が意見交換を行う教科別協議会が開催されました。参加者からは、「映像は思考をポジティブに転換することができる」「映像は影響力が強いため、教師のリードや生徒が考える時間を確保することが必要」等、積極的な発言が相次ぎました。また、全体協議会では、公開授業での教諭の問い掛けや映像等の仕掛け、生徒の表情を映像で追って振り返る時間が設けられ、「どの教科においても、創意工夫で深い学びに繋がる授業を組み立てることができる」ということが確認できました。



三井住友信託銀行では今後も、SDGsの推進、ESD（持続可能な開発のための教育）の推進に努めてまいります。